

敦賀発電所1号機の原子炉手動停止について
(原子炉再循環ポンプメカニカルシールの機能低下)

このことについて、日本原子力発電株式会社から下記のとおり連絡を受けた。

記

敦賀発電所1号機(沸騰水型軽水炉;定格出力35.7万kW)は、定格熱出力一定運転中のところ、3台(A~C)ある原子炉再循環ポンプのうち、B号機の軸封部^{*1}(メカニカルシール)で機能低下^{*2}が認められることから、計画的に原子炉を手動停止し、当該軸封部を取り替えることとした。

なお、C号機の軸封部についても、極僅かに機能の低下傾向が認められることから、念のため取り替えることとする。

今後、12月28日9時から出力降下を開始し、13時頃発電停止、同日20時頃に原子炉を手動停止する予定である。

また、軸封部(メカニカルシール)の取替作業が順調に進捗すれば、平成16年1月2日頃に発電再開の予定^{*3}である。

この事象による環境への放射能の影響はない。

*1)軸封部(メカニカルシール):

1次冷却水がポンプ本体と主軸の隙間から外部に流出することを防止するため、高圧のシール水を注入し、この隙間をシール(密封)する働きを持つ。

*2)機能低下:

メカニカルシールから外部に僅かに流れるシール水(シールリーク量)の増加や、メカニカルシール内部(シールキャビティ)の圧力の上昇から、メカニカルシールのシール(密封)機能が低下していると判断している。

*3)軸封部(メカニカルシール)の取替作業には、約3日間かかる見込みであるが、作業の進捗状況によっては、多少延びる可能性があり、それに伴い発電再開の予定は変更される。

(原子力安全・保安院によるINESの暫定評価尺度)

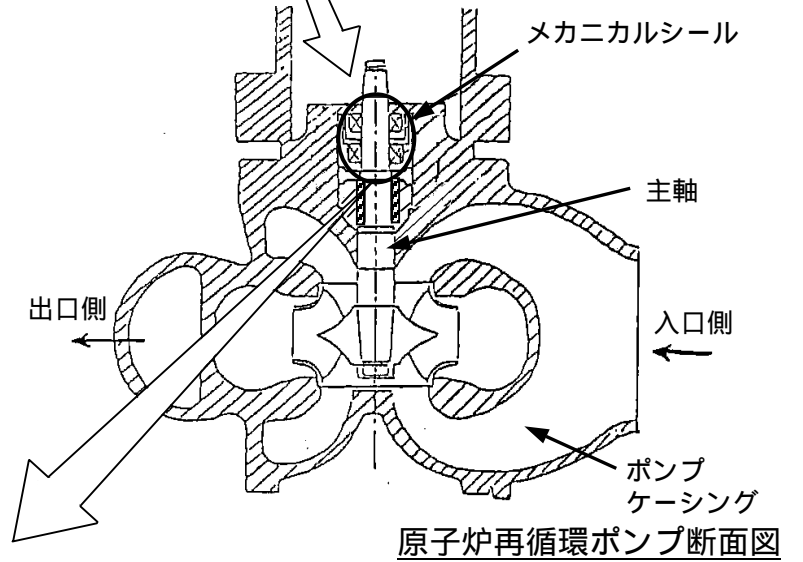
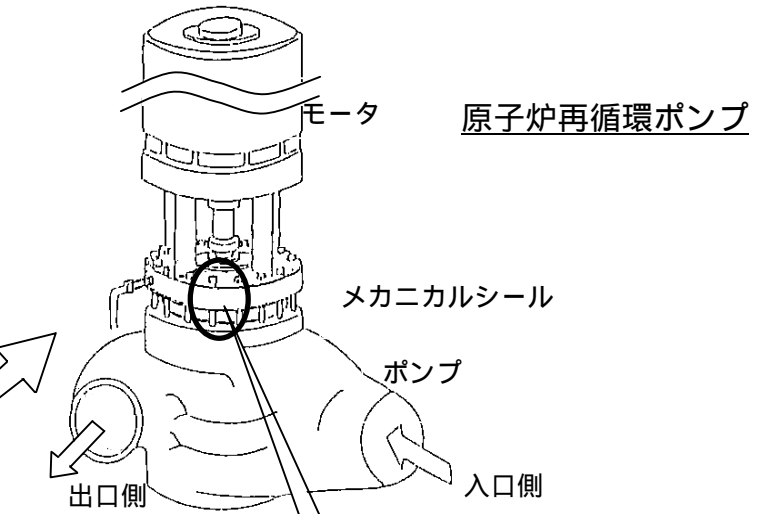
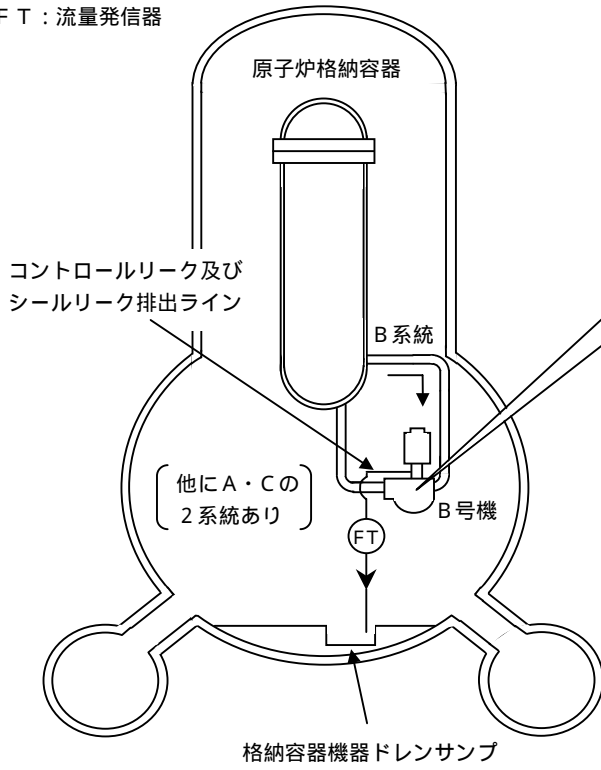
基準1	基準2	基準3	評価レベル
-	-	0-	0-

問い合わせ先(担当:小西)
内線2354・直通0776(20)0314

原子炉再循環ポンプメカニカルシール部状況説明図

系統概略図

FT：流量発信器



メカニカルシール概念図

